

教育課題検討委員会 第2回 議事概要（公開用）

平成 28 年 10 月 31 日(月)19:00～20:30

総合福祉センター 3 階集会室

出席者： 検討委員（全員出席）、事務局

（課長補佐）

ただいまより、第2回多度津町教育課題検討委員会を開会いたします。
はじめに、多度津町教育委員会 教育長 よりご挨拶を申し上げます。

（教育長）

失礼します。本日は、第2回の教育課題検討委員会にお集まりいただきありがとうございます。第1回では、辞令の交付、諮問文の説明、教育委員会の持っている情報について提供をすると、そういったことが主な事柄だったと思います。情報提供では、1つ目に、文部科学省のまとめた学校規模の適正化、適正配置にかかる検討の経緯について、ご説明申し上げました。2つ目には、町内の小学校の児童、幼稚園の園児の推移について、ご説明申し上げました。3つ目には、各小学校・幼稚園の耐震化の状況、建築年数の経過状況について、事務局より資料に基づき、ご説明いたしました。その後、各小学校・幼稚園の状況についての意見交換や資料提供のお話をさせていただきました。本日は、委員の皆さまから出た、資料要望に基づいて、事務局の方でご説明申し上げて、適正規模とか、適正配置について、委員の皆さまにご検討いただくということになろうと思います。

（課長補佐）

それでは、教育課題検討委員会の会長に司会をお願いいたします。

（会長）

今回も前回に引き続き、多度津町の教育課題について、検討を進めたいと思います。まず、会のはじめに当たり、お手元に配布されている第1回の議事録概要についてです。前回のお話の中でもありましたけど、議事録を要約した形で公開していく、という事だったと思います。事務局の方で資料をご用意いただきましたので、「こうしたほうが良い」というご意見をいただきたいと思いますので、しばらく時間をとらせてもらいます。

（教育長）

今後、町のホームページ等で、公表していきたいと思っております。

「誰」が「何」を言ったかということについては、できる限り伏せるというかたちでまとめています。

文脈が分かりづらいところ、挨拶等、誤字・脱字については、事務局で少し訂正させていただきます。結果的に、若干の文量に縮小しています。

細かい一字一句でありましたら、ペンで訂正していただいて、提出していただくということでも構わないと思います。もし、あれば、そういった修正をしていただいて、教育委員会へ提出していただければと思います。

(会長)

このようなかたちでさせていただくということにかまいませんか。今日の会についても、これのようにまとめていただくことにしたいと思います。

それでは、議題に移らせていただきたいと思います。次第にございますように、議題の(1)本町の人口流出入の状況について、事務局よりご説明をいただきたいと思います。

【事務局より説明】

(会長)

質問はありませんでしょうか。グラフの縦軸は、単位はすべて「人」でよろしいでしょうか。最後のスライドも「人」ですね。

欲を言えば、これは実数ですので、比率で言えばどうかと。母数からすると、どの地区で多いのか少ないのかできれば、相対的なことがわかるかなと思いますね。それでは、大丈夫でしょうか。

次の資料に進みたいと思います。

それでは(2)幼稚園小学校の今後の学級編制の状況について、事務局よりご説明いただきたいと思います。

【事務局より説明】

(会長)

それでは、資料についてのご質問をお受けしたいと思いますが、幼稚園・小学校の学級の規模について、何かございましたら。

小学校の学級のところで、赤とか青の色づかいをされているところは、何を意味されているのでしょうか。年度ごとの、人数のところですが。

(主任主事)

これは、昨年と比較し、学級数が増減するところを表しております。赤が昨年比で

増、青が昨年比で減となります。年度が進むごとに、青色が目立ってきているようになっていきます。

(教育長)

付け加えさせていただきますと、今、1年生2年生は、35人学級がサイズとしては最大。3年生から6年生は、40人ということになっています。今現在の学級定数のほうで、算出させていただきました。

(会長)

幼稚園の方は、特に文科省から指示はありますか。

(教育長)

幼稚園については、ありません。小学校1年生で35人学級ということになりますから、幼稚園から小学校のことを考えると35人学級より人数は少なくしなければいけないのではないかとふうに思っていますから、多度津町として、幼稚園の人数は、年少は25人、年中は30人、年長で35人ということにしています。

(会長)

それでは、先に進んでいただいてよろしいでしょうか。

では、議題では(3)、資料番号では4になっていますが、幼稚園小学校の居住分布について、お願いできればと思います。

【事務局より説明】

(会長)

これについても、ご質問等あれば、お願いしたいと思いますが。

(委員)

多度津小学校の中で、白方在住というのは、いわゆる東白方の両方通えるところが多いのですか。

(主任主事)

そうです。あと、一部で、こちらから区域外就学の許可を出させていただいて、線引きの中では白方校区に入るのですが、祖父母が多度津地区に住んでいてそちらに下校とか、そういった理由で就学許可を認めている児童もいます。

(会長)

これは、他の校区でもそういったことで認められているお子さんはいるということですか。

(主任主事)

そうです。あとは、保育所さんの方でされている学童保育の利用とか、そういう理由で（区域外就学を許可している）、ということもあります。

(教育長)

申請を出して、校区外の小学校あるいは幼稚園に行くというかたちが、ほとんどです。

(主任主事)

それと、東白方の城ヶ下については、校区の線引きの中で、多度津小学校に行ってくださいと指定されている子どももいますので、そこで多度津小へ通っている子どももいます。

(委員)

「行ってください」というのは。

(主任主事)

教育委員会の定めた校区の線引きの中で、あなたは多度津小学校ですという地域が城ヶ下の中には、一部あります。

(委員)

それは、その地区の意識として、そういうふうな、それとも町がそういうふうに決めていますか。

(主任主事)

教育委員会の通学規則ですね

(委員)

自由選択ではなくて、ここは多度津校区ですよ、と。

(会長)

学区がそういうふうに分かれているということですね。

(主任主事)

そうです。ただ、教育長が申しましたように、校区外就学の申請が出て、こちらで審査したうえで許可させてもらって、通っている子が多いです。

(会長)

そうすると、白方方面から13名というのは多いと思いましたが、実際、学区が多度津になっているところもあるということですね。

(委員)

地区社協(社会福祉協議会)、地区の組織ですね。これとの整合性という話ですが、城ヶ下は、白方地区社協の範囲になっており、また多度津の西浜、西浜というか多度津地区社協ですかね、何か両方ダブっているようです。両方へは入っておる。これはおかしいのではないかと、そういうことを私が言ったことがあったのです。

(主任主事)

だいたい従来からの、旧村の地区割で学区は引かれているのですが、一部、城ヶ下みたいに、地区は白方だけど通学規則ではこっちになっているところがあります。他にもあるのですが、城ヶ下が一番、顕著な例です。

(委員)

会費の問題があつてね。白方地区へ会費を出して、集めた会費を多度津の方へ一部をまわしているというところがあるようで。それはおかしいじゃないか、と言われたこともあったようです。

(主任主事)

校区と地区が一致していないところでは、そういうことが生じているのじゃないかと思います。

(委員)

それと遡って申し訳ないのですが、保育所と幼稚園の関係というか、人数の把握ですけれども、見通しの把握。白方幼稚園の平成30年度が1名から6名ということで、どっちになるかわからんということで、こうなっているのです。

(会長)

私立の幼稚園(へ行く選択肢)というのがありますよね。

(主任主事)

近年の入園の割合で見た一番、現実的な数字と、単純に今、保育所に入っている子

だけを除いた最大の数字と、そういう幅を持たせて、表させてもらっています。

(委員)

どっちかというとな少ない方が適正というか。

(主任主事)

そうですね。

(会長)

豊原の地図のほうなのですが、葛原の南部の方が欠けていますよね。これは検討資料として、多度津エリアも入っている、四箇も入っているというところで、葛原も全部写したほうが良かったのじゃないかと思います。はずれていますので。長細いシートですから、多度津・豊原の選択学区はいれる必要があったのでしょうか。

それと、白方で一部、2 kmを越えているふうに出てはいますけど、豊原も葛原南部は同じように2 km越えているという部分もありますので。白方で、そういうところを上げられるのであれば、豊原のほうもあつたらよかつたかなと思います。

これについては、よろしいでしょうか。議題では(4)になるのでしょうか、県内の幼稚園・小学校の再編等の状況について。資料では(6)以降になりますでしょうか。それでは、再び事務局の方からお願いしたいと思いますが。

【事務局説明】

(会長)

志度、琴平等の事例をご紹介いただきましたが、これについては。

(委員)

琴平は、時限的なものについては定めているのですか。

(主任主事)

琴平町は、平成30年の6月から着工というスケジュールになっているようです。完成が32年の2月ということで、答申の中では、そういうふうになっています。

(会長)

他にご質問はありませんか。よろしいですか。(6)本町の学級規模・学年規模の基準について、お願いしたいと思います。

【事務局より説明】

(会長)

今までのご説明について、質問がございましたら。

(委員)

県内市町との比較から言うたら、特に幼稚園の方が1園あたりの人数の差が、類似市町とでは大きいということですか。

(主任主事)

計算の結果では、そのようになりました。

(会長)

そのへんは、常識というか、1小学校に1幼稚園というのが、あったと思うのですが、現況からして、そうではないということでしょうか。

(主任主事)

市町合併など、再編が進む中で、こうなっていると思います。

(会長)

幼稚園の方が、開きが大きくなっているということですね。

(委員)

これは、保育所の数というのは、よそと比較して、多度津はどんなものでしょうか。

(主任主事)

そうですね。幼児教育の施設で、保育所であるとか、また私学、私立幼稚園とか、そういうところもあると思います。

(委員)

それによって幼稚園の数というのも、あるのでは。

(主任主事)

そうですね。保育所がこれだけあるから、町立幼稚園はいくつとか、私立幼稚園が町内にはないから、とか・・・。そういう資料はありません。

(委員)

一番、最初のところで、転入・転出の推移で10年前に転入も転出も増えている年

(2007年)があったのですが、その要因は何かあったのでしょうか。

(主任主事)

おそらく・・・推測ですが、この年あたりがピークに豊原地区の宅地造成等が盛んに行われて、それがだんだん落ちついて来ている状況ではないかと思われます。

(委員)

イオンタウンができて、その周辺に住宅がはりつくようにできていったあたりが・・・。それは、10年以上になるかな。

(会長)

そのぐらいじゃなかったかなと思います。

(教育長)

そのデータやったら、どこのところ。

(会長)

2007年ですね。

(委員)

棒グラフのところがわかりやすい。

(会長)

転出も多くなっていますよね。

(教育長)

常石(造船所事業撤退)は、あとだよ。転出はちょっとわかりません。

(委員)

子どもの数がもともと多い年だったとかは。母数が多かったとか。異動の割合は、さほど変わらないけど。

(会長)

ちょっと現時点では、不明ということでしょうかね。

(教育長)

横軸の140が人数でしょ。

(会長)

140人が入って来て、140人が出ていますね。およそ。これについては、よろしいでしょうか。ちょっと明確な答えが・・・。

(委員)

私も造船の関係とかで、親御さんの仕事で、子どもさんがついてくるとか、出て行くとか、あったのかなと思ってお聞きしました。

(委員)

琴平町は、小学校は再編計画を定めて、幼稚園の方は定めてないのですか。

(主任主事)

27年の検討委員会の中では、幼稚園の方は言及してないのですが、平成25年に、別に幼稚園教育の方の検討委員会というのを設置して、それは、琴平町が幼稚園の3年保育というのを、平成25年までやっていなかったのです。そのための検討委員会だったのですが、その答申の中で、今後は幼保一元化にしていくとか、園児数の状況を見て再編をしていくとか、そういうことは謳っているようです。ですので、今回の小学校の統合に合わせて、幼稚園を統合にするということは、今の時点ではないようです。

(会長)

琴平町は、幼稚園は3園ですか。

(委員)

2園です。北と南。琴平と榎井がひとつになっている。

(教育長)

それで、その時の検討委員会では、年少クラスを作る(3年保育の開始)がひとつの改革だったのですね。

(会長)

それでは、(6)の本町の学級規模・学年規模の基準について、考えたいと思います。こちらが資料でよろしいでしょうか。

(主任主事)

失礼します。先ほどまでですね、学校の人数であるとか、規模であるとかを色んな

方面から、ご説明させていただいたのですが、こちらに小学校は国の基準、幼稚園はひとまず国が基準とするものではありませんので、町の基準を載せさせていただいています。その下に、このまま小規模校として存続させていくことと、また一定の規模再編していくことのメリットとデメリットを上げさせてもらっています。この中にあるものは、事務局の方で考えたメリットとデメリットですので、ここから委員の皆さまに考えていただいて、上げていただけたらと思います。そして、小学校の人数の現状と推計。今後、国の基準を満たす学校はどこか。また同じく、幼稚園の人数の現状の推計から、町の基準を満たすのは、というのを載せさせていただいております。

そういったものを、こちらにまとめさせていただいておりますので、多度津町の小学校・幼稚園の人数、規模はどういったあたりが適切なのか。国の基準に則るべきなのか、そのメリットとデメリットは何なのか、そういったところで、唐突ではあるのですが、皆さまからご意見を頂戴したいと思います。

(会長)

先ほどまでの説明でもありましたが、両方ある中で、この場では難しいかもわかりませんが、この資料に基づいてというのも、良いと思いますので。

まずは、事務局のメリットとデメリット、これについて皆さんのほうで何かございましたら。

一定規模の生活面のデメリットで「人間関係が深まりにくい」に横線が引いてあるのは、これはデメリットとなり得ないからと言うことでしょうか。

(主任主事)

だいたい、メリットとデメリットが表裏、対の関係になるように作ったのですが、小規模のメリットで「人間関係が深まりやすい」の逆で、一定規模で「人間関係が深まりにくい」というのは言えないだろうと、そういう項目には見え消し線を引かせていただいています。

(委員)

一定規模に再編した場合に、どの項目に入るかわからんのですが、通学距離が遠くなるというのも、デメリットであると思うのですが。

(主任主事)

そのとおりだと思います。

(会長)

先生方は、いかがですか。現状と比べて、大きく人数が減った場合に、あるいは現状分析ということでお話いただいても構いませんので。

(教育長)

子ども、園児の立場で人数が減った場合にといいこともあるけれど、先生の立場で、教員の立場で小さな園と大きな園というのを考察する価値もあるのです。それが結局、子どもにも反映すると思う。

(委員)

そうですね。小さな園の場合、ここにあげているデメリットがほとんど、こういうものがあてはまると思うのですが、職員の立場で言うと、小さな園だと職員の数も少なくなってくるということになりますよね。そうすると、職員があまり少なすぎると、今でしたら、新規採用の先生の指導を見てあげるとか、色んな先生方の教え方を見られるというのも、人数がある程度いればできるんですが、少なくなってくるとできないということが、少しあるかなと思います。ただ、子どもにとっては、ひとりひとりへの関わり方とか、あんまり大きくなりすぎると難しくなりますけど、職員の中の研究とか研修とか、そういった部分ではある程度の人数がいるのかなと思います。

(会長)

小規模の場合ですと、先生お一人の仕事内容というか、負担も増えます。いわゆる校務分掌であるとか。

(委員)

それも、もちろんそうですね。小さな園でも、しなければならない園務は同じですから。

(教育長)

保護者の方も、そういうところが、もしあったら。

(委員)

幼稚園で言うと、保護者と園が一緒に行事を運営していく中で、やっぱり保護者が30人いるところと10人足らずのところで言うと、負担はどうしても大きくなってしまふところがありますね。子どもがたくさんいて、保護者がその数いて、協力が得られるというか。在園児の親だけですとなると、多度津幼稚園のPTAをしている中で感じるのは、そろそろ人数が限界で、OBの方たちに声を掛けて力を借りないと、色んな行事の運営が難しくなるのではないかと感じているところです。

(会長)

ひとつ確認させていただきたいのですが、今日はメリットとデメリットを出し合

って、まだ結論までは導かないということで、よろしいでしょうか。

(教育長)

委員の皆さんが理解するというか、問題点があるのであれば、問題を顕在化する。みんなで「こういう問題点がある」「こういう利点がある」それを分かり合って進むところに意味があるから、その点が明確になっておった方がいいと思います。今は様々な意見を出してもらいたいと思います。

(会長)

今、先生の立場、PTAの立場でお話をいただきましたが、資料にあるのが子どもさんの立場で、その他の立場からもあると思いますので。それから、やっぱりコミュニティの方で学校や幼稚園というのは要ですよ。これを変えるというのは、大きな影響になると思うのですが、そのあたりについていかがでしょうか。

(委員)

委員がおっしゃったように、先生同士の研鑽になる。先生の数が多ければ、その中で研鑽していけると言ったけど、子どもの立場でも、たくさん子どもたちの中で、自分の立ち位置というか、それを自覚していく。成長のひとつの要素じゃないかと思います。負けん気とか、やる気とか、そういう小さいときに大事な学習能力をつけていかないと、あんまり少なすぎる人数では、おじいちゃんおばあちゃんに来てもらったりとか、地域の方に手伝ってもらったりとかもできますけど、さっき、父兄の方のご意見もありましたけど、お母さん方の負担をね、ある程度少なくしていく幼稚園経営を考えていかないと、幼稚園はますます、みなさんから遠ざけられる。そんな風になっていってしまうのではないかなという声を、最近よく耳にします。あまりにも負担が大きすぎるから。ちょっと働きに行きたいなと思っても行けない、とか。

そういうことで、子どもにとっては、ある程度、人数がいる幼稚園が望ましいのかなと思います。

(会長)

現状で言うと、白方幼稚園も複式学級だということですね、何かそのへんのところで、いかがでしょう。お聞きになっていますでしょうか。

(委員)

例えばですね、私、白方ですから、よその地区のことは知らないのですが、幼稚園の運動会ってやられます。幼稚園だけの運動会。

(委員)

やっています。

(委員)

白方は、小学校と幼稚園合同でやっています。そういう部分は、小学校も、もちろんそうですが、委員が言われたように、保護者の負担というのはね、大変やなあと思うのですよ。これは、考えないかな、気の毒とは思うのですよ。人数が少ないというのは。

(会長)

実際に、先ほどの推計で白方が最少で2人になってしまうというのは、負担が大きいがために、他の幼稚園であるとか、そういう選択を取られているということもあるのでしょうか。

(委員)

保育所に行く割合が多いということでしょうね。

(委員)

幼稚園は幼稚園のメリットがあって、たった3年間しかなくて、あっという間に大きくなって、小学校に行って、親から離れていくのですけど、その時間を保護者も幼稚園といっしょに、子どもたちの成長を見ていきたいというお母さんもいるので、幼稚園の負担ばかりをクローズアップされちゃうと、それもちがうかなと思うのです。

地区のことも言われたのですが、再編で2つとか1つにまとめちゃうと、白方にいるお子さんがちがう地区に行っちゃうと、子どもたちの声も聞こえなくなるし、地区での集まりも、幼稚園とか学校とか大きな固まりになっちゃって、町自体が偏るといふか、コミュニティが偏ってしまうので、それぞれの地区で、子どもたちは成長すべきと思うので、1つにまとめるとか2つにまとめるとかも、必要になってくるかもしれないけど、やっぱり、地域とのつながりを考えた時に……。難しい問題だなあと思ってしまいました。

(会長)

今おっしゃった、コミュニティも再編成されてしまうということもあるのでしょうか。

(委員)

やっぱり大きな地区に持っていかれるという意識がありますから、どうしても我々は、残しておいてほしいという、そういう感情が強いですね

(委員)

コミュニティ自体は、地域との地縁の関係なので、例えば小学校を1つにするからといって、コミュニティも1つにするというのはあまりないのだろうと思います。お祭りなんかは、同じ豊原でも南鴨と葛原でもちがうように、そういう形でコミュニティとしては残っていくのだろうなとは思いますがね。

(会長)

大字といった単位でのコミュニティ。ただし、同地区がいっしょになると、小と大がいっしょになるとでは、吸収については悪いですが、大きくちがうということもありますね。

(教育長)

いつも話をさせてもらうのですが、3歳から5歳までというのが、子どもにとって、どういう時期かと言うと、すごい成長をするじゃないですか。それもお家の人から離れて、子どもたちが集団で生活して、友達を見て真似するとか、そういうことが中心になって、ものすごく世界が広がるということがあって、そのときに、確かに1人とか2人でも伸びる子は伸びると思う、こういう広がる機会のある3年間ですからね、この発達段階の子どもにとっては、ある程度の人数がいることが大事ではないかという気がしています。

(会長)

学習面でのメリットにあります、「友達の多様な考え方に触れる」。学習に限られることなく、人格形成もあるということですね。

(教育長)

そうですね。幼稚園は、遊びが中心だから、遊びというのは一人遊びもありますが、どちらかというところだと集団遊びが、子どもたちの色々な部分が形成されていく時期だから、ある程度の人数がいると思うのです。

(委員)

これは保育所の場合ですが、他の保育所では1年齢1クラスのところが多いと思うのですが、うちでは、3・4・5歳で主に2クラスにしますと、例えばこのクラスとこのクラスで何かをする、つまり対抗にすると、子どもたちがものすごく燃えるのです。頑張ろうとするのです。そういう場面を見て、子どもたちの育つ場を見ていると、何かちょっとひ弱な子が増えてきている中で、やっぱり「頑張らないかん」とか、時には「我慢せないかん」とか、そういうしっかりした心とかを育てていくためには、一定以上の人数が必要だろうと私も思いますね。

(会長)

文科省が基準を出しているのは、そういうメリットについては何か示されていませんかね。

(教育長)

基準は幼稚園でなく、小学校です。

(会長)

そうですか。小学校についてでも結構ですが、この「12から18学級とする」という理由については、それは何か示されているのでしょうか。

(教育長)

やはり、1学級では人間関係が固定化し、2学級以上だと学級編成が可能になり、いじめの問題などにも柔軟に対応できる、活気が生まれるという点はあるようです。集団で競い合う、良い意味で競い合うというのができやすい。

(会長)

それが経験値にもなる、と考えられますよね。

小学校、幼稚園のお話になっていますが、いかがですか。

(委員)

今、ご意見を聞いていると、中学校でも一緒なのですが、確かに、人数が少なかったら細かく生徒を見ることができるというのは、あります。ただ、さっきから皆さんがおっしゃっていたように、やはり子どもが成長するには、必要な「競争」というのは要ります。競争という言い方をすると語弊があるかもしれませんが、子どもの社会の中で、トラブルもありながら切磋琢磨をしなかったら、成長はしません。まして、幼稚園・小学校といった、先ほど教育長さんが言われたように、非常に成長の大きい時期に、そういう集団での体験をしているのと、していないのとでは、これが中学校でさらに大人へと成長していく中で、ものすごくプラス・マイナス両面の影響が出てくるのではないかな、とは一般的でしかありませんが、私は幼稚園・小学校の勤務経験がないので、それは、強く感じます。

それと、白方幼稚園は今、28年度と来年もそうなると思っていますけど、複式学級という形で、やられているということですけど、僻地校は、複式をしているところがあります。私自身は経験ないのでですけど、そういうところの校長に話を聞くと「複式学級は非常にやりにくい」という話は聞きます。それは人数じゃなくて、幼稚園でも年少と年中というのは教育課程が異なると思っているのですが、中学校で

もいっしょです。それを単純に人数で割り切って、複式をするというのは、まったく異なる教育課程で対応をしなければいかに、そのための発達段階というのがあって、学年なり、それを振り分けておるわけだから。私は、複式学級というのは、子どもにとって、仕方がないかもしれませんが、避けたいものだなというのがあります。だから、うちも特別支援学級は人数が少ないですが、最近はやそも複式にしているところはないです。

私は、一般論だけなのですが、そういうことは思います。

(会長)

今日は、そういう多様なご意見を出していただければ、ということです。

(委員)

委員にお聞きしたい。今、それぞれの小学校から中学校に入ってきたときに、やはり大勢おるところの学校の生徒と、少ないところの学校の生徒と、成績がちがうとか、元気がちがうとか、そういうことは感じますか。

(委員)

それは、はっきり申し上げると、感じないです。その年によって、学年の実態がちがいますので、そのちがいは、「今年どの小学校からの新生生はこんな感じやな」とか、そのちがいはありますが、固定化されて、小さい小学校、大きい小学校というのは、はっきり言って感じないです。まして、学力的なものは、まったくないです。

(委員)

私の経験から言うと、中学校で2回合併があったのです。町村合併の後の関係ですね。最初に、私が中学校2年の2学期に四箇と白方が合併をしました。3年の2学期に、多度津とそことが合併した。私は白方だけど、残念ながら、学力の差というのが、あったように思います。

(委員)

今の中学校は、それはないです。ただ、あの、白方小学校の人数が少ないときに、中学校でクラス編成をする際、男女差がものすごく、男子が多いとか、片方に偏るとるときがあるわけなのです。例えば、6クラス5クラスにしようとしたときに、そういう子が1人になってしまう時がある。ひとつのクラスに白方小学校出身の生徒が1人だけとか。そういう部分は、人数が大きい学校と小さい学校があれば、あります。

(会長)

それと同じような経験を私もあったのを思い出しまして……。私の出身はこちらではないのですが、2小学校の生徒が1中学校に行くというところだったんですけど、規模差が1：5くらいでした。私は1のほうで、小さいところから行くと、完全に大きいほうのペースですから、遅れをとるといえるか、スタートが遅れるという感じがありました。私の個人的な経験でもそうでした。入学してから1年くらいは追いつくのに時間がかかったなと思い出しますけれども。おそらく、委員がおっしゃるのと同じような……。それが成績に表れるというのものもあるかもしれませんね。多度津のように4小学校からというところがうかもしませんが、1対1で中学校だと、どうしても。

(委員)

今の時代ですから、校区を超えて子ども同士の交流とか、それが小学校段階でもありますし、僕らが知らんところで小学校時代のことを知ると、とか。スポ少とか、交流はものすごく広いです。まして、保護者同士の交流はもっと広いと思います。

(会長)

私たちが心配するほどのことは起こらないだろうということですね。

(委員)

今の「中一ギャップ」というのは、校区とかそういうものじゃなくて、色んな面で、つまり、そういうものに十分、配慮しなければとは思っています。

(委員)

もちろん学力だけでなく、我々は田舎の子やったから、悪い子がおらなかったということもあった。

(委員)

今でメリットとデメリットを考えているのですが、今後、子どもの数がどうなのか、今は平成30年代までで話をしていますけど、長期的に考えないと、また今度、こういう話し合いをしないといかんというなら、またこういうことの繰り返しになるのかなという気がするので、そういうあたりも考えながら、進めていただきたいと思います。

(会長)

長期的に通してというご意見でしたが、データの的にどうなってくるかということ

もありますが。

(教育長)

今の傾向としては、微減の少子化傾向はずっと続く、と。そういうことで検討していかないかなのかなということは思っていますね。減っていくというかたちで。期限設定は、また後から出てくるかと思うけれど、さっき、琴平の例で平成31年までにとか、方向性が見え出した後には、期限設定をして考えないかんと思います。それと、仮に校数を絞り込むようになってきたら、財政的な問題も並行して考えなかったら期限設定もできないし、それも含めて、この会を通じて具体化しなければと思います。今、委員さんが言われたように、長期的な視野にも立っていくのですが、どのあたりまででどうするかというのを今から検討しなければと思います。少なくとも少子化傾向で子どもの数が減るといのは、たぶん間違いないだろうと思っています。

(会長)

出尽くしてきた感はありますが、次回の検討委員会に向けて、こういう検討材料、資料をとというのがありましたら……。よろしいですか。

(教育長)

今、担当の方から、文科省が出している数字を踏襲するのか、町としてはこれで行こうとするのか、また、幼稚園の学級数のことだけで言うと、最初に最少が6人ということで提案しているのですが、そういうことについても適正な人数というのは、果たしてこれでいいのかどうかということを検討して、この後に出てくるのが学校数はいくつにしたらいいのかというのが、この次の段階で出てくると思うんですが、小学校何校、幼稚園何園というところまで検討していきたいと思います。その事柄について、今日はそのメリットとデメリットというか、最後に説明させてもらった内容でいくと、単純に密度で考えた場合は、幼稚園も小学校も、多度津は数が多いということも、あのデータから言うとそのことも見えるので、そういうことも念頭において、また、それについても意見をいただいて、次の検討委員会をさせていただけたらありがたいなと思います。

(会長)

これ、数を減らす場合には、どういうエリアになるかということについては、まだ次回までには。

(教育長)

今回は、数のほうをまず議論して、クラスサイズとか、学校サイズというのを検

討していく、ある程度方向性を決めていきたいと思います。

(委員)

数と言うのは、1クラスの規模ですか。

(教育長)

それだけでなく、今、示された12学級から18学級ですかね。とか、幼稚園の適正人数で、幼稚園の学級数もあるかもわからんけども、学級のサイズとか。そういうこともある程度、明確に。

(委員)

小学校で、クラス数だけでなく、クラスのサイズがないと、クラス数の枠が決まって来ないのでは。

(教育長)

今は、基準のとおりでいっているから、1・2学年は35人、それ以上は40人ということで、これも町として考えていいかなと思いますが、たぶん教職員の数の関係もあるから、この何年かは動かすことはできないかなと思います。

(会長)

まだ早いと言われるかも知れませんが、それを考えると、どの地区の組み合わせかということが、連動すると思うのですが。

(教育長)

例えば、幼稚園・小学校を、4つにするのか、3つにするのか、2つにするのか、1つにするのか、を考えたときに、それぞれのメリットとデメリットを考えていって、それやったら、メリットが多くデメリットが少ない案にしたらいいか、それを説明できるような資料を、一方で作っていかないかなかなという気はしています。

(会長)

2つにするとか、3つにするとかがあれば、組み合わせがやはりあります。

(委員)

そのときに、やはり多度津町の財政というか、その絡みもあるのかなと思います。あの、何校にしたら、どのくらいの費用がいるとか、例えば、減らすということになれば、築何十年経っているから新たに建てましょうというかたちになるとし

た時に、3校建てるのか、2校建てるのか……。たぶん費用がぜんぜんちがうと思うのですが、そういうあたりの計算というか。財政が、有り余るのであれば十分に使っていただければと思いますけど、すごく必要な部分でないかなという気がします。

(教育長)

まず、今の段階では、子どもの数を中心に、適正規模を考えていくということなのですが、おそらく財政の問題とか、地域のコミュニティの問題とか、付随して出てくると思うのですが、

(会長)

他に、よろしいでしょうか。では、貴重なご意見ありがとうございました。では、事務局にお返しします。

(課長補佐)

ありがとうございました。では、次回、第3回の日程なのですが、調整していただければと思うのですが、2ヵ月後というところで、12月の初めか、1月の末になりますが。年内がよろしいでしょうか。では、12月14日水曜日でいかがでしょうか。よろしいですか。

(教育長)

次回の会までも、議事録と資料等々を送付させていただくということで、こういう議論したらいいかということを明確にしたもの送らせてもらうので、皆さんの方で、色んな方に意見を頂きながら、また、ご自身の意見もいただけたら、ありがたいと思っています。

(課長補佐)

以上となります。ありがとうございました。

以上、散会